

## 日本ナサニエル・ホーソン協会設立 40 周年記念論集のお知らせ

会員の皆さま

これまで、日本ナサニエル・ホーソン協会では、『緋文字』出版 150 周年を記念した齋藤忠利編『緋文字の断層』(2001)、ホーソン生誕 200 年を記念した川窪啓資編『ホーソンの軌跡—生誕 200 年記念論集』(2005)、ホーソン没後 150 周年を記念した成田雅彦・西谷拓哉・高尾直知編『ホーソンの文学的遺産—ロマンスと歴史の変貌』(2016) を出版してまいりました。

当協会は 1981 年(昭和 56 年)10 月 17 日に設立され、本年度で 40 周年、来年 5 月の大会は第 40 回という大きな節目を迎えます。そこで、総会でもお知らせしましたように、これを記念した論集を刊行したいと考えております。

論集のタイトルは仮題ではありますが、本年度の全国大会シンポジウムのタイトルを一部拝借し、『今なおホーソンを読む理由—倫理か、謎か、<sup>スタイル</sup>文体か』(仮)としてみました。昨年から今年にかけて世界は新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄されてきましたが、このコロナ禍は私たちの生活のあり方を変えただけでなく、個々人の営みの必然性をもあらためて問いかけるものであったと思います。これを機に、文学研究者もみずからの学問のあり方を見直すこととなりました。

そのような中で、当協会も 40 周年という節目に当たり、今一度、なぜホーソンの文学を読み続けているのか、あるいは読み続けていくのか、その理由を問い直すことを通して、19 世紀の人間と 21 世紀の我々をつなぎ、ともすると昨今のさまざまな災害や苦難に打ちひしがれているように見えながら、その実、なんとか生き延びている人間精神の弾性・復元力(resilience/renaissance)を再確認してはどうかと考えた次第です。我々が文学を読む理由はさまざまだと思われませんが、本書では、ホーソンを読む理由を、

〈倫理〉 「心の真実」、歴史的・社会的状況との対峙、宗教、環境倫理等を含む、人としての生き方、モラルに関わる考察

〈謎〉 作品中、あるいは作家の人生における謎、不可解さへの推理的興味、人間的関心からの考察

〈文体〉 読者をひきつけてやまない文章の力、小説の形式、ジャンルの精密な読み解き

という三つの観点から考察してみようというものです。簡単な要項は以下の通りです。

論集タイトル:『今なおホーソンを読む理由—倫理か、謎か、<sup>スタイル</sup>文体か』(仮)

出版社:未定

刊行予定:2022 年 12 月

論文提出期限:2022 年 6 月末日(2021 年 11 月末までにプロポーザルを提出)

論文枚数:原稿用紙換算で 40 枚以内

(Wordの校閲機能文字カウントで、スペースを含め、16,000字以内)

编者：西谷拓哉、高尾直知、城戸光世を予定

出版費用：現在のところ各自負担を予定

本論集への参加を希望される方は、仮のものでけっこうですので、論文のタイトルと概要を400字程度で記したプロポーザルを西谷拓哉 ([takuyan@kobe-u.ac.jp](mailto:takuyan@kobe-u.ac.jp))宛てに、2021年11月30日(火)までにお送り下さい。プロポーザルは上記の三つの観点に添うものであればありがたいのですが、ホーソーンを読む新たな理由を提示するものであれば、上記以外のものでも大歓迎です。

プロポーザルを拝見し、執筆をお願いする方には、後日、詳しい執筆要領をお送りいたします。ただし、ご提出いただいた論文がそのまま論集に掲載されるということではなく、掲載は编者による査読を経て決定されることをご了解ください。また、编者の判断で会員以外の方に寄稿をお願いする場合もあることをご了承ください。

協会のこれまでの歩みを跡づけ、次のステップへとつながる充実した論集として、会員の皆さまからの投稿を広く募りたいと思います。是非、ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

2021年9月11日

会長 西谷拓哉